

# 歴史文化学科 カリキュラム・マップ(2020年度入学生)

次のような知識や能力を備えた学生に学士(歴史文化)の学位を授与します。

①歴史文化に関する基礎的な知識を身につける(知識)  
 ②論理的思考力を身につける(思考)  
 ③歴史学、考古学・民俗学に関する専門的な知識を身につける(知識・技術)  
 ④調査・収集・分析・理解する力を身につける(技術・行動)  
 ⑤構想・表現・伝達する力を身につける(創造・行動)  
 ⑥アイデンティティを構築し、社会に貢献する力を身につける(意欲・行動)

科 目 名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
						①	②	③	④	⑤	⑥
歴史学概論	講義	1	2	古代から現代までの歴史家を取り上げて、その歴史認識の手法を紹介し、歴史学の展開・発展について学ぶ。	「歴史とは何か」との問いを理解し、歴史へのアプローチの変遷について概観を得て、歴史を学ぶ意義を身につける。	◎					
考古学概論	講義	1	2	考古学の発達の歴史、概念、理論、方法、用語、考え方について、実例に即して学んでゆく。	考古学とはどのような学問かを理解する。	◎					
民俗学概論	講義	1	2	民俗学とは、身近な事柄から日常を問い直し、これからの生活や社会・文化のあり方について考えていく学問である。この授業では、これまでの研究の蓄積を踏まえるとともに、近年における国内外の新たな研究動向にも目を配りつつ学習する。	民俗学の考え方や研究対象・研究成果を理解し説明できるようになる。	◎					
日本史要説	講義	1	2	世界史との比較や、政治史以外の側面にも焦点を当てつつ、日本の歴史の展開や、日本社会の成り立ちを多角的に検討する。	日本社会の特色を知り、その多様性や特徴を学び、複雑かつ具体的な事象が歴史を作りあげてゆくことを理解する。	◎					
東洋史要説	講義	1	2	東アジア世界の成立というテーマに即して、東アジア各地の国や地域が全体として結びつきを深め、一体となって動いていく様子を理解できるようにすることを図る。	東アジア史の基礎知識を身につけ、通史的な概観を得る。	◎					
西洋史要説	講義	1	2	西洋近世・近代史に焦点を定め、世界的視野からその歴史を概観する。大航海時代・市民社会の成立・ナポレオン戦争・近代国家の成立・欧米列強の世界進出と続く世界の一体化の過程を中心に、西洋史の理解を図る。	西洋史を中心に近世・近代の世界の一体化のプロセスを認識し、現代社会との関わりを理解する。	◎					
日本考古学要説	講義	1	2	旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代など、各時代の考古学について、知識を深めてゆく。	日本考古学の歴史と現状を実例に則して学び、理解する。	◎					
日本民俗学要説	講義	1	2	民俗学はその時代の政治的・社会的状況や、メディアおよびテクノロジーの進化、芸術表現や大衆文化と密接に関わり合いながら、生活の中から「民俗」を見出して研究して来た。この授業では、民俗学的な調査や表現を行うための基礎的な知識を身につけるために、主要な民俗学者や各種の資料の研究視角・表現方法についての学問史を学習する。	民俗学の主要な研究方法および資料の捉え方、表現方法について歴史的なパースペクティブから理解し説明できるようになる。	◎					
古文書入門	講義	1	2	平易な史料の写真版のコピーを読み、くずし字に慣れるとともに、特に仮名文字をマスターできるように、トレーニングを行う。	崩し字で書かれた手書きの史料に慣れ、仮名文字であれば読めるようになる。	◎					
美術史	講義	1・2・3	2	古来、日本では、中国伝来品を「唐物」(舶来品の異名ともなる)として尊んできた。現在の日本の博物館・美術館施設においても、中国古美術品は東洋古美術作品のなかで、かなりの割合を占める。中国各時代に生まれた美術品にある優れた技術・表現力とその影響を、様々な美術や文化、特に日本美術のなかになみていきたい。	中国各時代の美術品の影響を様々な美術や文化、特に日本美術のなかに見いだすことができる。日本人が受け継いできた文化や美的感覚が中国美術に影響を受けつつ、長い美的創造の歴史をつくってきたことを、実感し、洞察することができる。	◎					
地誌	講義	1・2・3	2	地誌は「諸学の母」としての性格を有しており、文学、歴史学、考古学、民俗学等あらゆる学問の研究入門となり得る。本授業では日本の地誌、および地図編纂の歴史を、古代から現代までを対象として概観し、地域がどのように認識されてきたのかを学ぶ。	日本の地誌、および地図編纂の歴史について基本的な知識を身につける。それらの具体的記述・描写をとらえて、地域がいかに認識されてきたのかを理解する。身近な地域を題材として、地誌的観点から特徴を表現することができる。	◎					
人文地理学概論	講義	1・2	2	人文地理学に関する一般的な知識を提示し、人文地理学の理論と地理学の考え方に基づいて社会をいかに分析するか、その分析の方法を示す。それにより、地理的な見方・考え方を習得し、特に中等高等学校における地理学を教える際の一助とする。	1.人文地理学の基礎的な知識を習得する。 2.人文地理学の見方・考え方を理解する。	◎					

科目名		授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号					
							◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(歴史文化)の学位を授与します。 ①歴史文化に関する基礎的な知識を身につける(知識) ②論理的思考力を身につける(思考) ③歴史学、考古学・民俗学に関する専門的な知識を身につける(知識・技術) ④調査・収集・分析・理解する力を身につける(技術・行動) ⑤構想・表現・伝達する力を身につける(創造・行動) ⑥アイデンティティを構築し、社会に貢献する力を身につける(意欲・行動)										
自然地理学概論	講義	1・2	2	水文学的な視点を取り入れつつ、地理学の重要な一分野である「河川学・陸水学・海洋学」に関する基礎的事項について学習する。また、関連する身近な自然環境で生ずる様々な現象についての原理や法則などについても学習する。	1.自然地理学分野に関する諸現象の基礎的理解を身につける。 2.中学・高等学校で自然地理学分野を取り扱う際に必要な知識を習得する。	◎						
政治学概論	講義	2・3・4	2	「政治原論」を講義の中心におくことを本意としつつ、日本政治思想史に関する教科書を使用し、「史実」を随時咀嚼し、理解を容易にしている。	「政治」というものを少し斜めに見る、具体的には政治に関する様々な言葉や現象をいささか批判的、冷笑的かつ理論的に眺めてみる試みにより、政治の「本質」が理解できる。	◎						
法学概論	講義	2・3・4	2	社会で生じる事件・紛争と法律との関わりについて理解を深める。また、国際社会における日本という観点から国際法の概略を学ぶ。さらに、市民が裁判に参加する制度を学ぶ。本講義により、法学と事件・紛争との関係を理解でき、国際法とはなにかを知り、主体的に裁判に参加できるような意識を形成することができる。	法学が社会で果たす役割を理解し、基本的な法律である憲法、民法、刑法等の概略を理解し、裁判制度の概観を理解する。また、国際化された社会において国際法の果たす役割を理解する。	◎						
社会学通論1	講義	2・3・4	2	現代日本社会の事例を通し、社会学の代表的領域に触れ、社会学の基本的なものの見方と考え方を学ぶ。私たちが生きる世界はさまざまな見方ができること、その見方を変えることが私たちが社会のあり方を変えるきっかけともなることを、テキストだけでなく、講師や周囲の人との議論を通して経験する。	社会学の研究対象となるさまざまな領域について、日本を中心とした現代社会の事例を参照し、基本的な概念や考え方を身につける。行政統計や新聞記事などを積極的に用い、自らの見解や行動をかたちづくる上で必要な情報やデータへのアクセスと活用、読解の方法について考える力を身につける。	◎						
社会学通論2	講義	2・3・4	2	現代日本社会の事例を通し、社会学の代表的領域に触れ、社会学の基本的なものの見方と考え方を学ぶ。私たちが生きる世界はさまざまな見方ができること、その見方を変えることが私たちが社会のあり方を変えるきっかけともなることを、テキストだけでなく、講師や周囲の人との議論を通して経験する。	社会学の研究対象となるさまざまな領域について、日本を中心とした現代社会の事例を参照し、基本的な概念や考え方を身につける。行政統計や新聞記事などを積極的に用い、自らの見解や行動をかたちづくる上で必要な情報やデータへのアクセスと活用、読解の方法について考える力を身につける。	◎						
経済学通論	講義	2・3・4	2	経済学とは、人間の行動原理やその集合体としての市場の成果について考察する学問である。幸福とは何かを考える上で経済学の果たす役割は決して小さくない。現在、新興国の台頭一方で世界的な経済格差の拡大がある。これらに代表される経済社会問題の本質を理解するため、新聞等の報道と関連づけるなどして平易に解説する。	経済学の基礎を学習し、経済学的なものの方および論理的思考力を習得する。それを元に、新聞・ニュースなどの情報を正しく評価できるようにする。	◎						
博物館資料論	講義	3・4	2	博物館資料の取り扱いや調査の例を通じて、収集・保存・整理・展示・公開・活用など、資料に対して行われる基本的な博物館活動の知識と技術を学ぶ。また、調査研究活動の意義と方法について理解を深める。	1.博物館資料の収集や整理保管、保存・展示に関する知識や技術を習得する。 2.博物館資料の調査研究活動について、理念・目的・方法・実際を理解する。				◎			
博物館資料保存論	講義	3・4	2	博物館資料を適切に保存する意義を論じ、具体的な資料保存・保全の方法を学ぶ。また、展示と収蔵という、資料保全の観点からは相反する業務を円滑に進めるために必要となる、適切な博物館環境の整備・管理に関する知識を学ぶ。そのうえで、自然環境、歴史的環境、景観等の自然・文化資源の有効活用に博物館が果たす役割について学ぶ。	1.博物館および博物館相施設における、展示・収蔵それぞれの適切な資料保全環境等の諸条件を科学的に捉えることができる。 2.展示と収蔵を円滑に行ないつつ、資料を良好な状態で保存してゆくための基礎知識を習得することができる。 3.資料の保全全般に関する基礎的能力を養うことができる。				◎			
社会科指導法1	講義	3	2	中学校学習指導要領「社会」における目標と内容構成について解説する。また、中学校における授業の実践について具体的な授業実践の事例を分析・検討を行い、指導方法、評価方法、教材開発など、社会科の授業をデザインするための基本について考察する。	社会科教育の歴史と特質、意義や目標、内容を理解する。また、中学校教員として必要な資質・能力の基礎を培う。						◎	
社会科指導法2	講義	3	2	社会科教育の目標・内容及び授業構成の基本原則について解説する。中学校における授業の実践について学習指導案や授業実践の分析・検討を行い、教材開発、展開について考察する。受講者による学習指導案の作成、模擬授業、討論を行う。	社会科の目標・内容及び授業構成の基本原則を理解する。中学校の現場で行われている授業の実践について、学習指導案、授業実践の分析・検討を通して教材開発、授業展開、指導方法について考察でき、教授・学習の在り方、社会認識形成と公民的資質の関係について捉えることができる。社会科教育の実践力の基礎を培う。						◎	
社会・地理歴史科指導法1	講義	3	2	高等学校学習指導要領「地理歴史科」における目標と内容構成について解説する。また、高等学校における授業の実践について具体的な授業実践の事例を分析・検討を行い、指導方法、評価方法、教材開発など、地理歴史科の授業をデザインするための基本について考察する。	地理歴史科教育の歴史と特質、意義や目標、内容を理解する。また、高等学校教員として必要な資質・能力の基礎を培う。						◎	

科目名		授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号					
							○達成のために特に重要 ◎達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(歴史文化)の学位を授与します。 ①歴史文化に関する基礎的な知識を身につける(知識) ②論理的思考力を身につける(思考) ③歴史学、考古学・民俗学に関する専門的な知識を身につける(知識・技術) ④調査・収集・分析・理解する力を身につける(技術・行動) ⑤構想・表現・伝達する力を身につける(創造・行動) ⑥アイデンティティを構築し、社会に貢献する力を身につける(意欲・行動)										
社会・地理歴史科指導法2	講義	3	2	地理歴史科教育の目標・内容及び授業構成の基本原則について解説する。高等学校における授業の実践について学習指導案や授業実践の分析・検討を行い、教材開発、展開について考察する。受講者による学習指導案の作成、模擬授業、討論を行う。	地理歴史科の目標・内容および授業構成の基本原則を理解する。高等学校の現場で行われている授業の実践について、学習指導案、授業実践の分析・検討を通して教材開発、授業展開、指導方法について考察でき、教授・学習の在り方、社会認識形成と公民的資質の関係について捉えることができる。地理歴史科教育の実践力の基礎を培う。						◎	
歴史文化基礎演習	演習	1	2	歴史学・考古学・民俗学の各分野を対象に、文献の読み方(内容のまとめ方)、史料の読み方などについて、基礎的なトレーニングを行う。	歴史文化学科生として学究生活をスタートするにあたり、必要とされる基礎的な力が身につく。						◎	◎
卒業論文演習	演習	4	4	卒業論文の主旨の指導の下、論文のテーマを確定し、調査・研究を進め、内容、構成を検討する。中間発表を経て、適切な体裁・表現で成果をまとめる。	1.歴史学・考古学・民俗学に関し、独自の研究課題を設定できる。 2.史資料を調査・収集・読解・分析・理解することができる。 3.論理的な文章を構想し、発想を適切に表現し伝達できる。					◎	◎	
卒業論文		4	6	担当教員の指導の下に、在学中の学習・研究の成果を総合的にまとめ、卒業論文を作成する。完成した論文に対して、口頭試問を行う。	1.歴史学・考古学・民俗学に関し、独自の研究課題を設定できる。 2.史資料を調査・収集・読解・分析・理解することができる。 3.論理的な文章を構想し、発想を適切に表現し伝達できる。 4.研究成果を発表し、社会に問う経験を通して、自らの資質・能力・適性を理解し、自身の役割を考えることができる。						◎	◎
歴史学研究入門1	演習	2	2	歴史学の個別分野に関する概説書をテキストとして選び、各学生がそれぞれ分担して輪読し、内容の紹介とコメントを報告する。	専門分野に関する基礎的文献を読みこなし、自ら知識を身につけられるようになる。						◎	◎
歴史学研究入門2	演習	2	2	前半は日本史の論文を一つ選定して報告してもらい、その内容をめぐって討論する。後半は奈良の歴史についてテーマを決めて調べた結果を報告し、その内容について討論する。	歴史学の研究方法や研究動向についての理解を深め、論文の読解力を高めるとともに、研究課題を見出し調査し発表する能力が身につく。					◎	◎	
文化交流史の研究1	講義	2・3・4	2	ユーラシア大陸の東西を結ぶ交通と交易の発展を概観し、それが東アジア世界に与えた影響について学べるようにする。	一国の中で閉じた歴史ではなく、複数の国や地域を含む広い領域内の歴史の動きを捉える。		◎	◎				
文化交流史の研究2	講義	2・3・4	2	15世紀に活発となるオランダの商業活動を検討し、その後の同国によるアジア遠征までを検討し、西欧とアジアの交流関係を概観する。更に幕末維新期における、日本の開国に関する国内動向について理解できるようにする。	近代西欧人がアジアに向かった背景と理由、更に開国期における日本側の反応・動向について理解する。		◎	◎				
日本古代史の研究	講義	2・3・4	2	DVDや図表などを使いながら、日本古代史(古墳時代・飛鳥時代・奈良時代・平安時代)の概略を分かりやすく説明していくと共に、最近の日本古代史の研究動向や研究方法なども解説していく。	日本古代史の概略と最新の研究動向を理解する。				◎	◎		
日本中世史の研究	講義	2・3・4	2	室町・戦国社会の成立・展開について、畿内社会に焦点を当て、他地域と対比しながら、武家・寺社権力を中心に検討する。	日本中世社会の特色を知り、その多様性や特徴を学び、複雑かつ具体的な事象が歴史を作りあげてゆくことを理解する。		◎	◎				
日本近世史の研究	講義	2・3・4	2	高校までに獲得した日本史の知識を再確認するとともに、教科書などの記述の根拠となった史料を読みながら、近世史研究の基本と、理解の掘り下げをめざす。	1.武家諸法度・禁中並公家諸法度などの各種法令、基礎史料の条文が理解できる。 2.検地帳・家数人数改帳などから基礎計算、系図の作成ができる。 3.それぞれの時代・テーマに即した研究史が把握できる。			◎	◎			
日本近代史の研究	講義	2・3・4	2	近代日本の地域社会が孕んださまざまな問題を、その地域で発行された地方教育雑誌における諸論説を材料に考察する。	高等学校で習得した日本近代の政治経済・社会文化に関する基礎的知識を再確認する。さらに、それら個別に覚えた事項がいかにか有機的に結び付いて「日本の近代」が成立しているか理解する。		◎	◎				

科 目 名		授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号						
							◎達成のために特に重要 ○達成のために重要						
							①	②	③	④	⑤	⑥	
ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(歴史文化)の学位を授与します。 ①歴史文化に関する基礎的な知識を身につける(知識) ②論理的思考力を身につける(思考) ③歴史学、考古学・民俗学に関する専門的な知識を身につける(知識・技術) ④調査・収集・分析・理解する力を身につける(技術・行動) ⑤構想・表現・伝達する力を身につける(創造・行動) ⑥アイデンティティを構築し、社会に貢献する力を身につける(意欲・行動)											
東アジア史の研究	講義	2・3・4	2	15～17世紀の東アジア世界の政治的・経済的変動について講義を行なう。具体的には、当時の中国と内陸アジアの経済発展と地域間格差、それに伴う統治機構の変化について扱う。	専門的な個別研究を学ぶことによって、より高度な知識と研究方法に対する理解を得る。		◎	◎					
国際政治史の研究	講義	2・3・4	2	日本開国を起点として、欧米列強のアジアの国際関係を踏まえ、アジアの植民地大国であったオランダの対日政策を、オランダ・イギリス・アメリカの原史料に基づき同時代の実相を検討する。	19世紀中葉の欧米列強によるアジア進出、とりわけ開国期の日本問題を中心した国際関係を理解する。また、その時代背景、いわゆる“帝国主義”を意識し、主に開国期の日蘭関係を学ぶ。		◎	◎					
古文書学	講義	2・3・4	2	古代・中世の古文書学の基本である様式論を中心としながら、機能論についても言及する。	文献史学の基本史料である古文書についての基本知識が身につくとともに、それを通じて古代中世の政治や社会の概要を理解できる。			◎	◎				
日本古代史料の講読1	演習	2・3	2	日本古代史料(古墳時代・飛鳥時代・奈良時代・平安時代)の読み方を分かりやすく説明していくと共に、実際に読解しながら問題を発見して行けるようにする。	史料を読解しながら、自分なりに日本古代の政治・経済・外交・文化の特徴を発見できる。			◎	◎				
日本古代史料の講読2	演習	2・3	2	日本古代史料(古墳時代・飛鳥時代・奈良時代・平安時代)の読み方を分かりやすく説明していくと共に、実際に読解しながら問題を発見して行けるようにする。	史料を読解しながら、自分なりに日本古代の政治・経済・外交・文化の特徴を発見できる。			◎	◎				
日本中世史料の講読1	演習	2・3	2	鎌倉幕府が編纂した歴史書である『吾妻鏡』をテキストとして、割り当てられた受講者が語句・意味などを調べたレジュメを作成して発表してもらい、それをもとに読み進めていく。	日本中世の漢文史料を読み下すとともに、その意味を理解できるようになる。			◎	◎				
日本中世史料の講読2	演習	2・3	2	戦国時代の武家の発給文書をテキストとして、割り当てられた受講者が語句・意味などを調べたレジュメを作成して発表してもらい、それをもとに読み進めていく。	日本中世の漢文史料を読み下すとともに、その意味を理解できるようになる。			◎	◎				
日本近世史料の講読1	演習	2・3	2	近世の史料集を読み、そこに記されている内容を正しく理解するとともに、その事件の背景や近世社会でどのような意味を持っているのか、などについても考察する。	日本の近世史料に慣れ親しみ、その読解力を高めるとともに、近世という時代についての理解を深める。			◎	◎				
日本近世史料の講読2	演習	2・3	2	「公事裁許扣帳」(『藤堂藩大和山城奉行記録』)を読み、そこに記されている内容を正しく理解するとともに、その事件の背景や近世社会でどのような意味を持っているのか、などについても考察する。	日本の近世史料に慣れ親しみ、その読解力を高めるとともに、近世という時代についての理解を深める。			◎	◎				
日本近代史料の講読1	演習	2・3	2	「葛野郡岡区事務日誌」(明治33年～昭和5年)を読む。史料を読み解くことにより、日本近代社会の形成過程を理解し、近代社会と現在との違いも意識できるようにする。	日本近代史料を読解するための基礎力を身につけ、史料の背景にある当該社会の問題についても考えられる。			◎	◎				
日本近代史料の講読2	演習	2・3	2	引き続き「葛野郡岡区事務日誌」(明治33年～昭和5年)を読む。	日本近代史料を読解するための基礎力を身につけ、史料の背景にある当該社会の問題についても考えられる。			◎	◎				
東洋近世史料の講読1	演習	2・3	2	最初に漢文読解の基礎的な訓練を行ない、その後、実際に史籍を会読して、読解力を身につけるようにする。テキストとしては、『明史』列伝から一篇を選ぶ。	東洋史を研究する上で基本となる漢文史料が読解できるようになる。			◎	◎				
東洋近世史料の講読2	演習	2・3	2	最初に漢文読解の基礎的な訓練を行ない、その後、実際に史籍を会読して、読解力を身につけるようにする。テキストとしては、『明史』列伝から一篇を選ぶ。	東洋史を研究する上で基本となる漢文史料が読解できるようになる。			◎	◎				



科 目 名		授業 形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(歴史文化)の学位を授与します。 ①歴史文化に関する基礎的な知識を身につける(知識) ②論理的思考力を身につける(思考) ③歴史学、考古学・民俗学に関する専門的な知識を身につける(知識・技術) ④調査・収集・分析・理解する力を身につける(技術・行動) ⑤構想・表現・伝達する力を身につける(創造・行動) ⑥アイデンティティを構築し、社会に貢献する力を身につける(意欲・行動)										
東洋近世史料の講読3	演習	2・3	2	最初に漢文読解の基礎的な訓練を行ない、その後、実際に史籍を会読して、読解力を身につけるようにする。テキストとしては、『明史』列伝から一篇を選ぶ。	東洋史を研究する上で基本となる漢文史料が読解できるようになる。			◎	◎			
東洋近世史料の講読4	演習	2・3	2	最初に漢文読解の基礎的な訓練を行ない、その後、実際に史籍を会読して、読解力を身につけるようにする。テキストとしては、『明史』列伝から一篇を選ぶ。	東洋史を研究する上で基本となる漢文史料が読解できるようになる。			◎	◎			
西洋近代史料の講読1	演習	2・3	2	スタンダードな英語の歴史概説書から、各自の興味ある項目を読解することで、自らのテーマの基礎を固め、日本の文献とは異なる歴史への視点・アプローチを理解する。	日本語で書かれた歴史文献だけではなく、西洋の文献をも扱えるようになる。			◎	◎			
西洋近代史料の講読2	演習	2・3	2	スタンダードな英語の歴史概説書から、各自の興味ある項目を読解することで、自らのテーマの基礎を固め、日本の文献とは異なる歴史への視点・アプローチを理解する。	日本語で書かれた歴史文献だけではなく、西洋の文献をも扱えるようになる。			◎	◎			
西洋近代史料の講読3	演習	2・3	2	スタンダードな英語の歴史概説書から、各自の興味ある項目を読解することで、自らのテーマの基礎を固め、日本の文献とは異なる歴史への視点・アプローチを理解する。	日本語で書かれた歴史文献だけではなく、西洋の文献をも扱えるようになる。			◎	◎			
西洋近代史料の講読4	演習	2・3	2	スタンダードな英語の歴史概説書から、各自の興味ある項目を読解することで、自らのテーマの基礎を固め、日本の文献とは異なる歴史への視点・アプローチを理解する。	日本語で書かれた歴史文献だけではなく、西洋の文献をも扱えるようになる。			◎	◎			
日本近世史料実習1	実習	2	1	近世史料の写真版のコピーを読み進め、取り上げる史料の難易度を徐々に引き上げながら、くずし字を読む力を高めるとともに、史料の内容も理解できるよう、トレーニングを重ねる。	近世のくずし字を読む力をさらに高めるとともに、史料の内容についての理解も深める。			◎	◎			
日本近世史料実習2	実習	2	1	地域の近代史料(写真版のコピー)を読み進め、史料の読解力を高める。また、史料の現物に接する機会も設ける。	史料の読解力を高めるとともに、史料が書かれた時代についての理解を深める。			◎	◎			
日本近世史料実習3	実習	3	1	近世文書(写真版のコピー)を読み進めるとともに、古文書の取り扱い法・整理の考え方、目録の作成、写真の撮影法などを学ぶ。	古文書読解力を高めるとともに、具体的な古文書の調査・整理方法について理解する。			◎	◎			
日本近世史料実習4	実習	3	1	近世を中心とした史料の整理作業と一緒に進め、最終的に報告書(目録)を作成するための実務を学ぶ。あわせて博物館・資料館などを見学する。	実践的な作業を通して、近世史料のあり方についての理解をいっそう深めるとともに、その取り扱い能力を育成し、高める。			◎	◎			
日本古代中世史演習1	演習	3	2	日本古代中世の様々な課題を解説するとともに、受講生各自が古代中世に関するテーマを出し、研究史を整理するとともに関係史料に当り、それに基づいて研究発表をする。	独自にテーマを設定し、その分野の研究成果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立てる。				◎	◎		
日本古代中世史演習2	演習	3	2	日本古代中世の様々な課題を解説するとともに、受講生各自が古代中世に関するテーマを出し、研究史を整理するとともに関係史料に当り、それに基づいて研究発表をする。	独自にテーマを設定し、その分野の研究成果をふまえ、関係史料を収集して読み込み、独自の論を立てる。				◎	◎		
日本近世史演習1	演習	3	2	受講生それぞれが、課題とするテーマの研究成果を取りまとめ、主要な史料を提示しつつ報告する。あわせてその内容をめぐって討論を行う。	日本近世史に関する研究史に学び、史料を収集し分析して、研究成果をまとめる。				◎	◎		

科目名		授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号					
							◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(歴史文化)の学位を授与します。 ①歴史文化に関する基礎的な知識を身につける(知識) ②論理的思考力を身につける(思考) ③歴史学、考古学・民俗学に関する専門的な知識を身につける(知識・技術) ④調査・収集・分析・理解する力を身につける(技術・行動) ⑤構想・表現・伝達する力を身につける(創造・行動) ⑥アイデンティティを構築し、社会に貢献する力を身につける(意欲・行動)										
日本近世史演習2	演習	3	2	受講生それぞれが、課題とするテーマの研究結果を取りまとめ、主要な史料を提示しつつ報告する。あわせてその内容をめぐって討論を行う。	日本近世史に関する研究史に学び、史料を収集し分析して、研究成果をまとめる。				◎	◎		
日本近代史演習1	演習	3	2	『日本近代思想体系』の中から各自が取り組みたいテーマと史料を選び、研究史をふまえ、史料を読解して報告する。	日本近代史に関する研究史を学び、史料を収集・分析して、研究成果をまとめる。				◎	◎		
日本近代史演習2	演習	3	2	『日本近代思想体系』の中から各自が取り組みたいテーマと史料を選び、研究史をふまえ、史料を読解して報告する。	日本近代史に関する研究史を学び、史料を収集・分析して、研究成果をまとめる。				◎	◎		
東洋近世史演習1	演習	3	2	東洋近世史の分野で各人が特定の問題を一つ選び、その問題について扱った文献を読み、まとめて報告する。報告の後に、それぞれの問題に関係する史料を全員で会読する。	東洋史に関する特定の問題について調べ、まとめて報告し、検討することができる。				◎	◎		
東洋近世史演習2	演習	3	2	東洋近世史の分野で各人が特定の問題を一つ選び、その問題について扱った文献を読み、まとめて報告する。報告の後に、それぞれの問題に関係する史料を全員で会読する。	東洋史に関する特定の問題について調べ、まとめて報告し、検討することができる。				◎	◎		
西洋近代史演習1	演習	3	2	各受講生の問題意識から必要な西洋文献を選択し、その検討を行う。また日本での研究動向を認識するのに必要不可欠な和文献に基づき、各自が発表を行ない、それに基づいて討論する。	各自のテーマに基づく洋文献を検討し、研究史作成に必要な不可欠な和文献を広く収集・検討し、それに基づいた発表を行う。				◎	◎		
西洋近代史演習2	演習	3	2	各受講生の問題意識から必要な西洋文献を選択し、その検討を行う。また日本での研究動向を認識するのに必要不可欠な和文献に基づき、各自が発表を行ない、それに基づいて討論する。	各自のテーマに基づく洋文献を検討し、研究史作成に必要な不可欠な和文献を広く収集・検討し、それに基づいた発表を行う。				◎	◎		
文化財行政学	講義	2・3	2	百年以上の歴史をもつ、わが国の文化財保護行政のあゆみと、その特徴や文化財の置かれている現状を把握する。文化財から文化の理解に繋がる手立てや方法について学習する。国民は文化財を享受する一方で保護する責任があるという認識に立ち、文化財を将来にどのように引き継いで行かねばならないかを考える。	1.わが国の文化財の枠組みと特徴がわかる。現在政策として行われている文化財保護行政の実際と課題が理解できる。 2.将来文化財保護に携わる場合に適応できる思考と知識の基礎が習得できる。			◎	◎			
民俗学と現代社会	講義	2・3	2	「I.身の回りの文化と歴史」で、身近な事象も歴史的に形成された文化であることを確認する。「II.古風土記と近現代の伝説」では、説話の持続と変容を理解する。「III.災害伝承の展開」では、古代・中世・近世の龍蛇伝承に現れた災害観の展開をたどる。あわせて、伝承から具体的な災害の推定を試み、現代への教訓との可能性を検討する。「IV.正月行事の意味と諸相」は、授業で得た知識をもとに、流布される正月文化についての言説を判断する機会とする。	1.民俗学によって現代社会を批評できる基礎的な知識や判断能力が身につく。 2.民俗文化の歴史性が理解できる。 3.関連資料の形態や歴史的性格について、基本的知識が身につく。			◎	◎			
文化遺産の保存と活用	講義	2・3	2	奈良県に所在する考古学的な文化遺産とその保存・活用について、正倉院から時代を遡ってゆく形で概観し、それぞれの文化遺産に関わるトピックを取り上げる。	1.文化遺産の保存に関わる取り組みや枠組みが理解できる。 2.文化遺産の保存と活用をめぐる問題について、事例を通して具体的に理解できる。			◎	◎			
旧石器・縄文時代の考古学	講義	2・3	2	旧石器時代と縄文時代の研究史を整理し、遺構や遺物などに則した具体的な考古資料の分析や操作による研究方法と成果を講義する。	1.旧石器時代から縄文時代にいたる文化の特徴および文物の消長の理解を通し、人類の歩みが習得できる。 2.先史時代研究に欠かせない研究対象資料の、型式学的理解への前提的知識や技術が身につく。			◎	◎			
弥生時代の考古学	講義	2・3	2	考古学的な観点から、弥生時代とその社会を列島の歴史の中に位置づける。	1.弥生時代の考古学について専門的知識を習得できる。 2.具体的な事例や研究に即して、考古学における方法論・理論について理解することができる。			◎	◎			

科目名		授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号					
							◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(歴史文化)の学位を授与します。 ①歴史文化に関する基礎的な知識を身につける(知識) ②論理的思考力を身につける(思考) ③歴史学、考古学・民俗学に関する専門的な知識を身につける(知識・技術) ④調査・収集・分析・理解する力を身につける(技術・行動) ⑤構想・表現・伝達する力を身につける(創造・行動) ⑥アイデンティティを構築し、社会に貢献する力を身につける(意欲・行動)										
古墳時代の考古学	講義	2・3	2	古墳時代の概要の理解に努め、本学周辺の古墳、天理参考館の展示を積極的に利用する。古墳の変遷を通観し、古墳時代を構成する諸要素のうち重要な問題を取り上げて解説する。これらの知見を整理・総合し、当時の社会全体を復元的に理解する。	1.古墳時代についての専門的知識を獲得できる。 2.資料となる遺跡・遺構・遺物や専門用語を理解できる。 3.古墳時代の全体像が理解できる。 4.日本考古学(日本史)における古墳時代の位置づけ、東アジア世界における古墳時代の位置づけを考察する基礎が身につく。		◎	◎				
飛鳥・奈良時代の考古学	講義	2・3	2	日本という国家が成立する時代である飛鳥時代・奈良時代を理解するための考古学的課題について、基礎知識を得る。それぞれの時代について、寺院、都城、瓦の生産と流通、土器の生産と流通、金属生産の各テーマを通じて概観し、時代の流れと特質について、比較しながら理解を深める。	飛鳥時代・奈良時代の資料と時代の全体像が理解できるよう、関連する考古学的課題の基礎知識が身につく。		◎	◎				
中近世の考古学	講義	2・3	2	「食・住」に重点を置き、「うつわ(器)」について縄紋時代から近世までの「土器」について学習する。また、「集落」について歴史時代のデータを紐解き、「畿豊期城郭の成立と発展」と題し日本の中世から近世への過渡期にみられる社会情勢と併せて紹介する。さらに死生観について縄紋時代から近世までの「墓」の事例を紹介し考えたい。	歴史考古学の知識が身につく。その時代の社会を復元する上での考古学的手法が有効性が理解できる。		◎	◎				
生活文化史	講義	2・3	2	日本の職人の歴史に焦点を当て、暮らしの推移について学ぶ。職人は単に生計活動を営むだけでなく、さまざまなイメージをともなう存在でもあり、そこには、熟練と生き方といった意味も込められている。「手作り」が評価される現代、職人に求められるイメージと実態についても考える。	日本の職人と暮らしの歴史について基本的な事柄を理解する。また、現代の職人をめぐる諸問題について考察し、自らの言葉で表現することができる。		◎	◎				
生と死の民俗学	講義	2・3	2	通過儀礼について概観した後、妊娠・出産、子育てにまつわる民俗と現代的様相、病気への対応と病の民俗、その国際比較、死の儀礼と葬送、および現代的様相を扱う。	誕生、病気や老いに関する観念、死生観について、伝統的側面に加え、現代の様相や異文化での事例なども踏まえた理解が深まる。		◎	◎				
民話と伝承	講義	2・3	2	本講義では、文字に頼らずに永年伝承されてきた豊かな文化情報の一つとして伝説や昔話を学ぶ。民話を通して、民話に籠められた先人の信仰・思考法・叡智などを学ぶ。調査や研究の方法にも言及する。民話の面白さを実感し、その奥深さを認識する。	1.口承文芸や民話の内容や分類について説明する。 2.民話の調査や研究の方法について具体的に説明する。 3.様々な民話について、本文を読んで、構造や表現を分析する。		◎	◎				
宗教民俗学	講義	2・3	2	日本列島で行われてきた生き物の「いのち」をめぐる祭り・儀礼とそれらに関する研究の蓄積を学び、人間が自然に対してどのような態度をとってきたのかを理解する。さらに、人柱や人身御供の儀礼・伝承を取り上げ、動物供犠とも比較検討しながら、「いのち」を破壊する暴力性を人間がどのように扱ってきたのかについて学習する。	宗教民俗学の観点から、人間と自然、および人間と暴力の関係について理解し説明できるようになる。		◎	◎				
東アジア考古学	講義	2・3	2	東アジアは相当に広い範囲に及び、地域ごとに独自の文化の展開があった。ただし中国で文明がいち早く発展し、以後もその先進性を保ち続ける。周辺地域はさまざまな形で中国と関係し、東アジア世界と言うべき一体性を持つようになる。東アジアを俯瞰できるよう、順を追って講義を進める。	1.中国を中心とする東アジア地域の地理的特質・時代区分を学ぶ。 2.中国の考古学を通観し、東アジアにおける先進文化の展開を知る。 3.朝鮮半島や中国北方など中国の周辺地域の考古学を学び、日本を含めた東アジア世界全体の展開を考える。		◎	◎				
西アジア考古学	講義	2・3	2	前半では西アジア考古学に関する基礎知識を得るとともに、19世紀以来当地の発掘調査を通して発展してきた、都市遺跡や金属生産遺跡、土器に関する調査・研究法を学ぶ。後半ではフェニキア人の活動と変遷に焦点を当て、古代西アジアと地中海における地域間関係の展開を学ぶ。	1.西アジア考古学という広大な分野の地域区分、時期区分を知る。 2.エジプト、パレスチナを中心に、学史上重要な遺跡についての基礎知識と意義を学ぶ。 3.西アジア考古学の発展の歴史を通じて、考古学的調査研究法の基礎知識を得る。 4.西アジアにおける諸勢力の興亡の背景にある相互の影響関係を理解するための基礎知識を得る。		◎	◎				
文化人類学	講義	2・3	2	異文化研究である文化人類学の方法と理論、成果を学び、具体的なテーマを通して様々な文化でのもの見方や考え方を理解する。その上で、多文化共生社会において、異文化をルーツを持つ人々との交流・交渉・共存のあり方についての視点や方法、考え方を論じる。	1.異文化を知ることから、多様なもの見方・考え方・価値観があることを理解する。 2.多文化共生社会における文化・社会的状況について理解し、それらへの対処や取り組みへの姿勢を養う。		◎	◎				
考古学・民俗学特講1[文化財探査]	講義	2・3	2	考古遺跡を対象とした各種の非破壊調査法の概要を述べ、物理探査法の中から、主として地中レーダ探査法、磁気探査法、電気探査法を取り上げ、原理、特徴、得られる成果について解説する。天理大学が保有する探査装置を使用して実際の探査を体験する。	1.文化財探査の各手法の原理と特徴がわかる。 2.実際の探査方法、得られたデータの解析と判読方法が身につく。				◎	◎		

科目名		授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号					
							◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
							①	②	③	④	⑤	⑥
ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(歴史文化)の学位を授与します。 ①歴史文化に関する基礎的な知識を身につける(知識) ②論理的思考力を身につける(思考) ③歴史学、考古学・民俗学に関する専門的な知識を身につける(知識・技術) ④調査・収集・分析・理解する力を身につける(技術・行動) ⑤構想・表現・伝達する力を身につける(創造・行動) ⑥アイデンティティを構築し、社会に貢献する力を身につける(意欲・行動)										
考古学・民俗学特講2[環境と考古学・民俗学]	講義	2・3	2	考古学遺跡、民俗資料について、環境や材質を調べる方法と、その基礎となる岩石鉱物学、堆積学、土壌学、地質学、植物学の知識を学ぶ。	1.岩石同定、木材同定、花粉分析、珪藻分析、寄生虫卵分析の原理および研究成果が理解できる。 2.その基礎分野となる岩石鉱物学、堆積学、土壌学、地質学、植物学の知識が身につく。			◎	◎			
考古学・民俗学特講3[民俗誌]	講義	2・3	2	都市祭礼についてのエスノグラフィーを読み進める。日本三大祭の一つの大阪天満宮の例大祭、いわゆる天神祭に関する民俗誌を中心に読み進め、ほかの祭礼や芸能との比較も試みる。祭礼を支える様々な団体、縁(つながり)、芸能、また、天神祭りに付随して行われるイベントや歴史などについても考える。	1.エスノグラフィーを読み進めることで、特定の地域や対象について総合的、包括的に理解する経験を積むことができる。 2.エスノグラフィー自体がはらむ限界と問題性に気がつく。			◎	◎			
考古学・民俗学特講4[実験考古学・民族考古学]	講義	2・3	2	発掘調査で出土した遺物を、考古学的な情報や民俗学的情報、文献資料、さらに伝統工芸技術を博覧・駆使して、復原する。可能であれば、製作復原におよぶ。	出土遺物の用途や使用方法、さらには特定の素材や技術が選ばれたことの意味について考えることができる。			◎	◎			
考古学・民俗学特講5[文化財と保存科学]	講義	2・3	2	文化財の保存科学を主題とし、埋蔵文化財を中心として、保存処理の方法論の解説と事例の紹介をおこない、保存処理の考え方や原理に関する理解を得る。また、考古学研究における自然科学分析の活用を主題とし、主要な自然科学分析の原理を解説しながら、実際の研究事例を紹介する。考古学的課題の解決にむけて、多角的なアプローチを策定できる基礎知識を得る。	1.文化財の保存科学と自然科学分析の基礎を学び、考古学等の研究にどのように生かされてきたか理解できる。 2.それらが、今後どのように生かせるかについて見通しを持つことができる。			◎	◎			
考古学実習1	実習	2・3	1	野外調査における主な対象は遺跡と遺構であり、これらの測量・実測の方法を、実践を通じて学ぶ。	1.野外における遺跡調査に必要な知識と技術を習得する。 2.遺跡調査に不可欠な測量機器の扱い方がわかる。 3.それを用いた測量図・実測図が作成できる。					◎	◎	
考古学実習2	実習	2・3	1	野外調査の実践として土層断面図の作成した後、室内での整理・調査を実践する。実際の出土資料(遺物)を用いて、資料の扱い方、観察や記録の仕方、実測・拓本などの基礎的な知識と技術を実践的に学ぶ。野外・室内で作成された測量図・実測図を報告書に掲載するために必要な、図版のレイアウト・製図・版下作成を実践する。	1.野外調査で得た資料の整理・調査に必要な知識と技術を習得する。 2.出土資料(遺物)の実測、調査報告書のための図版作成の知識と方法を修得する。 3.それら実際の研究とのつながりを理解する。					◎	◎	
考古学実習3	実習	2・3	1	「考古学実習1」「考古学実習2」で学んだ考古学の調査研究のための基本技術を、実際の発掘調査で実践する。	1.調査区の設定から発掘作業、埋め戻しまでの発掘調査の方法や進め方が身につく。 2.出土資料の扱い方や記録の方法、事後の作業等が総合的に身につく。					◎	◎	
民俗学実習1	実習	2・3	1	民俗調査の歴史や実際の調査方法をテキストを用いて習得する。また、特定の地域をフィールドに定め、当該の調査地域に関する文献の収集と先行研究の成果を整理し、事前学習を行う。	フィールド・ワークをおこなう上で必要な基本的な知識と調査技術がわかり、調査計画が立案できる。					◎	◎	
民俗学実習2	実習	2・3	1	調査報告の作成までの一連の過程を学ぶ。	民俗調査の結果を整理し、報告書を執筆することができる。					◎	◎	
民俗学実習3	実習	2・3	1	調査テーマや調査項目を立案し、実際に一週間程度合宿して民俗調査を体験する。	1.フィールド・ワークをおこなう上で必要な基本的な知識と調査技術が身につく、民俗調査が実施できる。 2.民俗芸能の見学や、地域の人々との交流により、総合的人間的に成長する。					◎	◎	
考古学・民俗学研究入門1	演習	2	2	考古学・民俗学にかかわる具体的な論文や研究書をとりあげ、内容の読み取り方や論文・レポートのスタイルを学ぶ。また、レポートの作成や発表を通じ、文献・資料の検索法、実務的な文章の書き方、効果的な報告法などを身につける。	1.考古学・民俗学の研究の取り組み方がわかり、調査・研究に着手することができる。 2.考古学・民俗学の論文・レポートの書き方がわかる。					◎	◎	
考古学・民俗学研究入門2	演習	2	2	考古学と民俗学の研究の基礎を学び、各自のテーマを決めて、研究を深める。山辺の道を歩き、フィールドワークの基礎を身につける。	1.教員との相談により、各自の研究テーマが深めることができる。 2.文献リスト、先行研究の要旨、レジメの作成や、プレゼンテーションの経験、レポートの作成を通じ、卒業論文執筆の基礎的な知識・技術が身につく。 3.山辺の道でのフィールドワーク用のパンフレットの作成を通じ、学術文献にあたり、必要な情報をまとめる力が身につく。					◎	◎	



ディプロマ・ポリシー	<p>次のような知識や能力を備えた学生に学士(歴史文化)の学位を授与します。</p> <p>①歴史文化に関する基礎的な知識を身につける(知識)          ②論理的思考力を身につける(思考)          ③歴史学、考古学・民俗学に関する専門的な知識を身につける(知識・技術)          ④調査・収集・分析・理解する力を身につける(技術・行動)          ⑤構想・表現・伝達する力を身につける(創造・行動)          ⑥アイデンティティを構築し、社会に貢献する力を身につける(意欲・行動)</p>
------------	---

科 目 名	授業形態	配当年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号					
						◎達成のために特に重要 ○達成のために重要					
						①	②	③	④	⑤	⑥
考古学・民俗学課題研究1	演習	3	2	考古学・民俗学に関し、興味のあるテーマについて研究し、結果を口頭で発表する。	1. 次年度の卒業論文の作成にむけて、文献・関連資料が収集できる。 2. レジュー・配布資料など発表資料が作成できる。 3. 効果的な研究発表ができる。 4. 発表についての議論、ができる。 5. 各自が卒業論文で扱うテーマを絞り込める。				◎	◎	
考古学・民俗学課題研究2	演習	3	2	考古学・民俗学に関し、興味のあるテーマについて、研究を深め、結果を口頭で発表する。	1. 卒業論文の作成にそなえ、関連資料の収集ができる。 2. レジュー・資料の作成ができる。 3. 発表や議論をすることができる。 4. 卒業論文で扱うテーマを具体的に絞り込むことができる。 5. 論文の構成・章立てができ、参考文献一覧や注が書ける。				◎	◎	